

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン  
取組の概要と推進委員会からのコメント

整理番号

11

申請担当大学 (連携大学)	近畿大学（計7大学） (大阪市立大学、神戸大学、関西医科大学、兵庫医科大学、大阪府立大学、神戸市看護大学)
プログラム名	7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン
事業推進責任者	中川 和彦（近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門教授）
取組の概要	
<p>本プランの目的は、阪神地区の国公私立7大学9学部の医学、看護学、薬学、理工学系大学院研究科が相互連携し、多様化する新ニーズに対応した個別化医療を実践できるがん専門医療人を養成することである。目的達成のために、3つのタスクフォース（TF）を立ち上げ、ゲノム医療、希少がん及び小児がん、ライフステージに応じて生じる様々な課題等に対して取り組む。「TF1ゲノム・サイエンス」では、ゲノム医療を構築し連携大学間及び産学官共同研究を推進する。「TF2教育イノベーション」では、個別化医療を実現するための革新的な教育プログラムの開発を促進する。「TF3マルチパートナーシップ・アライアンス」では、地域医療機関、自治体・公的機関、がんサバイバーを含む患者会、NPO法人等との連携・支援体制を強化する。各タスクフォースが有機的に連携することによって、患者中心の個別化医療を実践できるがん専門医療人が養成される。</p>	
推進委員会からのコメント	
<p>○：優れた点等、●：改善を要する点等</p> <p>○多様な学部の連携によって、教育コースの種類が豊富かつ独自性のあるプログラムとなっている。</p> <p>○ゲノム医療、希少がん・小児がん、異なるライフステージに事業内容が分類され、それぞれの課題、方向性が明確化されており評価できる。</p> <p>○がん領域の認定遺伝カウンセラー養成を強力に推進するプログラムは実効的なものとなっており、評価できる。</p> <p>○がん治療のみならず、不足しているサバイバーシップ、緩和治療専門医、ペインクリニックの専門職の養成に焦点化した具体的な計画となっており評価できる。</p> <p>○キャリアパスやキャリア形成、男女共同参画、ワークライフバランスについて、具体的な計画が示されている。</p> <p>●ゲノム医療展開に重要となる分子病理医や老年医学的視点も加えた高齢者の特性に関する教育体制などの構築について、検討が望まれる。</p> <p>●国際競争力を有する人材の育成を目指すのは意欲的であるが、より具体的な育成プランの明示が必要である。</p> <p>●年度別の計画における取組の実施時期を明確化する必要がある。</p>	